

技術・家庭科 《第2学年家庭分野》年間指導計画・評価計画

担当（ 杉森中学校 ）

家庭分野の目標

家庭の機能について理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活に必要な基礎的な理解を図るとともにそれらに係る技能を身につけられるようにするとともに、よりよい生活の実現に向けて課題をもって生活をよりよくしようとする能力と生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

題材名		■学習課題○学習活動	時間数	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	評価の方法
B 衣食住の生活 (食生活)	1 人間にとっての食事 (p.90~95)	■食事の役割について理解し、毎日の食生活に関心をもつ。 ○食事の役割について小学校で学んだことをふり返り、どのようなときの食事が印象に残っているかなど発表する。 ○食習慣について理解し、健康な体づくりのために気をつけなければならないことについて考える。	2	・健康な体づくりには「栄養（食事）」「運動」「休養（睡眠）の調和がとれていることを理解している。 ・調理実習の基本を理解し、調理によって食品が変化することを実感を伴って理解している。	・自分の食生活を「栄養（食事）」「運動」「休養（睡眠）」からふり返ることについて、問題を見いだして課題を設定している。 ・自分の食生活を調理や食事と関連させて考え、工夫している。	・食事の役割について、問題解決に向けて自分の体験や一連の活動を振り返って改善しようとしている。	
	2 食品と栄養素 (p.96~105)	■食品は食品群に分類されること、その食品群の五大栄養素との関係を理解する。 ■五大栄養素の体内ではたらきを理解する。 ○6つの基礎食品群について理解する。 ○食品群と五大栄養素の関係について理解し、食品成分表の見方を知る。 ○教科書で食べ物が体内でどのようなかを確認する。	3	・栄養素の種類と働きがわかり、食品の栄養的な特質について理解している。		・栄養素の種類とはたらきについて、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。	

題材名		■学習課題○学習活動	時間数	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	評価の方法
	3 中学生に必要な食事 (p.106~115)	■中学生に必要な栄養の特徴を理解する。 ■1回の食事を目で見えて栄養のバランスがとれているか判断できるようにする。 ○食事摂取基準から中学生に多く必要な栄養素を見つけ出し、その理由を考える。 ○1回の食事を目で見えて栄養のバランスがとれているか判断できるようにする。	2	・中学生の1日に必要な食品の種類と概量について理解している。	・中学生の1日分の献立について問題を見いだして課題を設定している。 ・中学生の1日分の献立について実践を評価したり、改善したりしている。	・中学生に必要な栄養素を満たす食事について、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。 ・中学生の1日分の献立について、課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。	
	4 日常食の調理と地域の食文化 (p.116~165)	■調理の意義やおいしさと調理の関係について理解する。 ○調理と「おいしさ」の関係について意見を出し合う。 ○5つの基本の味を理解し、うま味成分と相乗効果について理解する。	15	・おいしさと調理の関係について理解している。	・うま味について理解し、五感を使って自分の言葉で表現することについて考え、工夫している。		
		■衛生と安全・環境に配慮した調理実習の手順とポイントを理解し、調理操作を身につける。 ○衛生と安全、環境に配慮した調理の流れとポイントを確認し、調理用具の種類と使い方を知る。		・調理の手順と注意点がわかり、衛生と安全に配慮した調理について理解している。 ・野菜の切り方の名称について理解しているとともに、適切に切ることができる。			
B 衣食住の生活		■生鮮食品の特徴を理解し、目的に応じた選択・保存ができる。 ○生鮮食品の特徴と目的に応じた選択・保存方法と食中毒の関係を理解する。		・生鮮食品の特徴とその表示の見方について理解している。	・生鮮食品の選択や保存について問題を見いだして、課題を設定している。	・生鮮食品の選択について、課題の解決に主体的に取り組んでいる。	

題材名		■学習課題○学習活動	時間数	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	評価の方法
		■肉の調理上の性質を理解して、肉の調理をする。 ■魚の調理上の性質を理解して、魚の調理をする。 ■野菜の調理上の性質を理解して、野菜の調理をする。 ○衛生的で安全な調理と見通しをもった調理実習を行うことを確認し、肉・魚・野菜の特性を理解し、それぞれにあった調理方法を考える。		・調理の目的や食材に合った取り扱いについて理解しているとともに、適切にできる。 ・肉・魚・野菜の調理上の性質を理解しているとともに、適切に調理できる。	・肉・魚・野菜の調理について問題を見いだして、課題を設定している。 ・肉・魚・野菜の調理計画を考え、工夫している。 ・肉・魚・野菜の調理について、実践を評価したり、改善したりしている。	・調理実習について工夫し創造し、実践しようとしている。	
		■加工食品の特徴を理解し、目的に応じた選択ができる。 ○身近な加工食品をあげ、先に学習した生鮮食品の表示と比較しながら、加工食品の表示の見方を確認する。		・加工食品の特徴や目的に応じた選択方法を理解している。		・用途に応じた食品の選択・判断について、工夫し創造し、実践しようとしている。	
		■地域で生産される食材の調理を通して、地域の食文化を理解する。 ○和食の特徴を理解し、地域の郷土料理を調べる。		・地域で生産される食材の調理を通して、地域の食文化を理解している。	・日常食の調理と地域の食文化について、課題解決に向けた一連の活動について考察したことを論理的に表現している。	・地域の食材を生かした調理の計画や実習に意欲的に取り組み、学んだ知識と技術の活用について工夫し創造し、実践しようとしている。	
	5 献立づくり (p.166~171)	■1 日分の献立作成の方法を理解し、作成することができる。 ○各食品群の食品を組み合わせ、栄養バランスの取れた1日分の献立を考える。	3	・1日分の献立を作成する方法について理解している。	・1日分の献立を作成し、1食分の調理の仕方や調理計画について問題を見いだして課題を設定している。	・1日分の献立を作成し、課題の解決に主体的に取り組んだり、ふり返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。	
	6 持続可能な食生活 (p.172~174)	■自分たちの食生活をSDGsの視点からふり返り、食生活のあり方について考える。 ○食品ロスや食料自給率の課題について理解し、自分たちができる工夫や社会の取り組みについて話し合い、発表する。	1		・社会や環境に配慮した食生活についての課題解決に向けた一連の活動について、考察したことを論理的に表現している。	・社会や環境に配慮した食生活を目指して、食事の役割や栄養、献立、調理などについて、工夫し創造し、実践しようとしている。	

題材名		■学習課題○学習活動	時間数	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	評価の方法
○消費生活・環境	1 家庭生活と消費 (p.264~265)	■金銭管理のしかた等自分の消費行動を振り返り、問題を見いだし、課題を設定することができる。 ○生産の流れや収入と支出、計画的な金銭の管理の必要性等を知り、自分の消費行動を振り返って問題を見いだし課題を設定する。	1	・消費生活のしくみを理解している。 ・収入と支出をはかり、金銭管理の大切さを理解している。	・金銭の管理のしかた等の自分の消費行動について問題を見いだし課題を設定している。		
	2 購入・支払いと生活情報 (p.266~273)	■商品を選択するポイントを理解し、比較検討しながら、目的に合った商品を選んで購入することができる。 ○商品を選択するときのポイントや、よりよい商品選択のための情報収集のしかたについて考え、自分の考えをまとめる。	3	・物資・サービスの選択に必要な情報の収集・整理について理解しているとともに収集・整理が適切にできる。	・自立した消費者として物資・サービスの選択・購入などの消費行動について考え、工夫している。	・金銭の管理と購入について、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。	
○消費生活・環境		■購入方法や支払い方法の特徴と問題点や計画的な金銭管理の必要性について理解することができる。 ■金銭の管理と商品の購入について課題の解決に主体的に取り組もうとする。 ○さまざまな支払方法について知り、金銭管理について考える。		・購入方法や支払い方法の特徴や、計画的な金銭管理の必要性について理解している。			
	3 消費者被害と消費者の自立 (p.274~283)	■事例を通して、消費者の権利と責任について理解することができる。 ○消費者の権利と責任を果たす「自立した消費者」の在り方について事例を通して考える。	3	・消費者の8つの権利と5つの責任について理解している。	・消費者被害と消費者の自立について問題を見いだし課題を設定している。 ・消費者被害と消費者の自立について考え、工夫している。 ・消費者被害と消費者の自立について実践を評価したり、改善したりし	・消費者被害の事例について話し合い、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。	

題材名		■学習課題○学習活動	時間数	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	評価の方法
		■消費者被害の現状や背景について理解する。 ○消費者被害の現状と背景、悪質商法の内容を知り、手口と予防方法をまとめる。		・消費者被害の現状と背景について理解している。 ・悪質商法の手口と予防法について理解している。	ている。 ・消費者被害と消費者の自立についての課題解決に向けた一連の活動について、考察したことを論理的に表現している。	・悪質商法について課題の解決に主体的に取り組もうとしている。 ・消費者被害について工夫し創造し、実践しようとしている。	
		■売買契約について問題発生の原因や対応方法を含め、理解する。 ○売買契約について知り、まとめる。		・売買契約の成立と解約について理解している。			
		■消費者を支える支援やしぐみについて理解し、環境や社会に配慮した消費行動について考える。 ○権利と責任を果たせる自立した消費者になるためにどのような支援や仕組みがあるとよいか発表する。 ○環境や社会に配慮した消費行動について考え、発表する。		・消費者を支える支援やしぐみについて理解している。			
生活の課題と実践	生活の課題と実践 【課題設定】 (p.292~303)	○今まで学習してきた「家族・家庭生活」「衣食住の生活」「消費生活・環境」の中からほかの内容とも関連させて課題を設定して、課題解決に向けて計画を立てる。	1		・「家族・家庭生活」「衣食住の生活」「消費生活・環境」などについて問題を見だして課題を設定している。 ・設定した課題について解決策を考え、工夫している。	・設定した課題について、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。	